



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月8日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 タカラトミー
コード番号 7867 URL www.takaratomy.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 一洋
問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員連結管理本部長 (氏名) 伊藤 豪史郎 TEL 03-5654-1548
四半期報告書提出予定日 2023年8月9日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	43,102	9.0	2,506	50.5	2,330	74.5	1,805	145.6
2023年3月期第1四半期	39,552	12.8	1,665	△22.5	1,335	△37.7	735	△75.6

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 6,451百万円 (△2.3%) 2023年3月期第1四半期 6,600百万円 (138.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	19.72	19.70
2023年3月期第1四半期	8.04	8.03

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	163,733	91,185	55.6	1,003.97
2023年3月期	159,519	87,167	54.5	950.39

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 91,085百万円 2023年3月期 87,012百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	17.50	—	15.00	32.50
2024年3月期	—				
2024年3月期（予想）		17.50	—	17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	92,000	3.3	6,000	△0.2	5,600	14.4	4,000	25.3	43.61
通期	195,000	4.1	13,500	2.9	13,000	7.9	9,000	8.2	98.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	93,616,650株	2023年3月期	94,990,850株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	2,891,730株	2023年3月期	3,435,898株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	91,581,157株	2023年3月期1Q	91,502,219株

(注) 当社は「役員向け株式交付信託」及び「執行役員等向け株式交付信託」を導入しており、株主資本において自己株式として計上されている「役員向け株式交付信託」及び「執行役員等向け株式交付信託」に残存する自社の株式は、1株当たり純資産の算定上、期末発行済株式総数より控除する自己株式に含めており、また、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

今後の見通しにつきましては、5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

機関投資家・アナリスト向けの決算説明会につきましては、2023年8月8日にテレフォンカンファレンスにて実施する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(2024年3月期第1四半期連結累計期間におけるハイライト)

当社グループは、企業理念である「すべての「夢」の実現」に向けて、玩具事業の強化をさらに進め強固な経営基盤を築くとともに、海外展開を推進し、真の国際優良企業 (Outstanding Global Company) への変革に取り組んでおります。また、2024年3月期においては、2022年3月期よりスタートした中期経営計画の最終年度として、経済活動や消費者の行動変化へ柔軟に対応を行い、中期経営計画の各施策達成に向かって取り組んでまいります。

(新型コロナウイルス感染症の影響などについて)

日本においては、新型コロナウイルス感染症に対する感染症法上の位置付けが5月8日に2類相当から5類感染症に移行されたこと等により、訪日外国人観光客を含めた人流の回復や各種イベントの再開など、社会経済活動の正常化へ向けた動きが一段と進みました。海外においても日本と同様に日常生活の回復へ向けた動きが進みました。

また、当社を取り巻く経営環境として、ウクライナ情勢の急激な悪化に端を発した、世界的な原材料価格の高騰やインフレーション、そして為替の急激な変動など、不透明感の高い状況が依然として続きました。

(連結業績について)

・売上高

定番商品においては、子どもだけでなく大人に対しても魅力ある商品の企画開発と販売強化に引き続き努めました。「プラレール」においては、これまでの子ども向けに加え、大人向けに「飾る楽しみ」と「走る楽しみ」を両立した「プラレール リアルクラス」の展開を新たにスタートさせました。「リカちゃん」では、1980年代に誕生し人気を集めたファッションドール「ジェニー」を「#Licca (ハッシュタグ リカ)」シリーズのフレンドドールとして復活させることを発表するなど、年齢軸の拡大に努めました。

また、テレビ・WebでのIP展開として、動かして遊べる動物フィギュア「アニア」初のテレビアニメとなる『冒険大陸 アニキングダム』を開始するなど玩具とコンテンツの連動を図りました。

グループ会社では、タカラトミーアーツが展開するガチャ事業において、大型ガチャ売場の設置拡大とヒットコンテンツを使った大人向け商品の拡大等により売上が伸長し、また、アミューズメントマシン「ポケモンメザスタ」が引き続き好調に推移いたしました。さらに、小売事業キデイランドでは訪日外国人観光客を含めた人流の回復により販売が伸長するとともに、中国においては、前年同期に行われていたロックダウンの反動もあり販売が復調いたしました。

以上により、売上高については43,102百万円（前年同期比9.0%増）となりました。

・利益面

売上高の増加及び輸送費の落ち着き等による原価率の改善から売上総利益が伸長したことにより、営業利益は2,506百万円（前年同期比50.5%増）、経常利益については2,330百万円（前年同期比74.5%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益については1,805百万円（前年同期比145.6%増）となりました。

(経営成績の概況)

<セグメント別業績の概況>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
売上高	39,552	43,102	3,550	9.0
日本	33,245	36,521	3,276	9.9
アメリカズ	6,122	5,936	△186	△3.0
欧州	894	770	△124	△13.9
オセアニア	626	593	△33	△5.3
アジア	14,771	14,079	△691	△4.7
消去又は全社	△16,108	△14,797	1,310	—
営業利益又は営業損失(△)	1,665	2,506	841	50.5
日本	2,996	3,719	722	24.1
アメリカズ	△216	△274	△57	—
欧州	△237	△272	△34	—
オセアニア	31	58	26	85.1
アジア	463	417	△45	△9.9
消去又は全社	△1,371	△1,142	229	—

<日本>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減
売上高	33,245	36,521	3,276
営業利益	2,996	3,719	722

定番商品においては、子どもだけでなく大人に対しても魅力ある商品の企画開発と販売強化に引き続き努めており、「プラレール」では、これまでの子ども向けの商品に加え、大人向けに「飾る楽しみ」と「走らせる楽しみ」を両立した、「プラレール リアルクラス」の展開を新たにスタートさせました。「リカちゃん」では1980年代に誕生し人気を集めたファッションドール「ジェニー」を「#Licca(ハッシュタグ リカ)」シリーズのフレンドドールとして復活させるなど、年齢軸の拡大に努めました。「トランスフォーマー」においては、新作映画公開に伴い映画のキャラクターをイメージした最新デザインの関連玩具を新たに発売するなど、注目が高まりました。

さらに、7月に発売となる現代版ベアゴマ「ベイブレード」の第4世代である「BEYBLADE X(ベイブレードエックス)」では、「ベイブレードは、スポーツへ。」をテーマに、玩具シリーズの展開やデジタル連動、漫画、テレビアニメ放送など各種施策について発表し、SNSなどで盛り上がりを見せました。

テレビ・WebでのIP展開として、今期発売10周年を迎えた動かして遊べる動物フィギュア「アニア」では、新たな定番商品として拡販に努めるとともに、4月よりテレビアニメ『冒険大陸 アニアキングダム』の放送を開始しました。また、「トミカ」「プラレール」「アニア」から生まれた個性豊かなキャラクターがおりなすアニメ『ゴー！ゴー！ビーくるずー』ではタカラトミー公式YouTubeチャンネルに加えて、4月からテレビ放送を開始するなど、当社が保有するIPの積極展開に取り組みました。

イベント事業においては、「トミカ博」「プラレール博」など各種イベントを再開し好評を博しました。また、小売事業キデイランドでは訪日外国人観光客を含めた人流の回復により販売が伸びました。タカラトミーアーツが展開するガチャ事業では、大型ガチャ売場の設置拡大とヒットコンテンツを使った大人向け商品の拡大等により売上が伸びました。アミューズメントマシンでは、「ポケモンメザスタ」が引き続き好調に推移いたしました。

6月の「日本おもちゃ大賞2023」において、タカラトミーグループでは大賞が3部門、イノベティブ特別賞、さらに優秀賞が3部門と合計7商品が受賞となり、高い評価を得ることができました。

以上の結果、売上高については36,521百万円(前年同期比9.9%増)、営業利益は3,719百万円(同24.1%増)となりました。

<アメリカズ>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減
売上高	6,122	5,936	△186
営業損失(△)	△216	△274	△57

ベビー用品の販売が堅調に推移するとともに、日本においてタカラトミーアーツが展開するぬいぐるみシリーズ「もっちゃんもっちゃん、海外商品名：Club Mocchi- Mocchi-」の販売が伸長いたしました。一方で、ファット・ブレイン・グループの販売が減少したこと等もあり、売上高は5,936百万円（前年同期比3.0%減）、営業損失は274百万円（前年同期営業損失216百万円）となりました。

<欧州>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減
売上高	894	770	△124
営業損失(△)	△237	△272	△34

「Toomies」などのプリスクール関連商品やロングセラーパーティーゲーム「黒ひげ危機一発、海外商品名：Pop-Up Pirate」の販売が伸長したものの、ベビー用品や農耕車両玩具等の販売が減少したこともあり、売上高は770百万円（前年同期比13.9%減）、営業損失は272百万円（前年同期営業損失237百万円）となりました。

<オセアニア>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減
売上高	626	593	△33
営業利益	31	58	26

農耕車両玩具の販売が堅調に推移し、ぬいぐるみ「Club Mocchi- Mocchi-」の販売が好調に推移したものの、ベビー用品等の販売が減少したこともあり、売上高は593百万円（前年同期比5.3%減）となりました。一方で、営業利益は輸送費の落ち着き等による原価率の改善から売上総利益が伸長したことにより58百万円（同85.1%増）となりました。

<アジア>

(単位：百万円)

	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減
売上高	14,771	14,079	△691
営業利益	463	417	△45

「トミカ」や「ポケモン」関連商品などが好調に推移したことに加え、タカラトミーアーツのアミューズメントマシンの好調が継続いたしました。また、中国においては、前年同期に行われていたロックダウンの反動もあり販売が復調いたしました。

一方で、生産子会社であるTOMY (Hong Kong) Ltd. における欧米向け出荷が減少したこともあり、売上高は14,079百万円（前年同期比4.7%減）、営業利益は417百万円（同9.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

[資産、負債及び純資産の状況]

<資産>

流動資産は、前連結会計年度末に比較して2,539百万円増加し、114,203百万円となりました。これは主として、現金及び預金が減少した一方で、受取手形及び売掛金、商品及び製品が増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して1,674百万円増加し、49,529百万円となりました。これは主として、有形固定資産が減少した一方で、無形固定資産、投資その他の資産が増加したことによるものです。

<負債>

流動負債は、前連結会計年度末に比較して1,214百万円増加し、54,271百万円となりました。これは主として、未払金、未払法人税等が減少した一方で、支払手形及び買掛金、短期借入金が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して1,019百万円減少し、18,276百万円となりました。これは主として、繰延税金負債が増加した一方で、長期借入金が減少したことによるものです。

<純資産>

純資産は、前連結会計年度末に比較して4,018百万円増加し、91,185百万円となりました。これは主として、繰延ヘッジ損益、為替換算調整勘定が増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年5月9日に公表のとおりであり、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,455	61,706
受取手形及び売掛金	20,905	21,893
商品及び製品	16,694	19,666
仕掛品	730	943
原材料及び貯蔵品	1,100	1,106
その他	5,972	9,097
貸倒引当金	△194	△209
流動資産合計	111,664	114,203
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,593	13,733
減価償却累計額	△9,357	△9,519
減損損失累計額	△910	△918
建物及び構築物(純額)	3,325	3,294
機械装置及び運搬具	2,862	2,903
減価償却累計額	△2,335	△2,384
減損損失累計額	△35	△35
機械装置及び運搬具(純額)	492	483
工具、器具及び備品	24,725	25,541
減価償却累計額	△22,779	△23,444
減損損失累計額	△960	△1,042
工具、器具及び備品(純額)	985	1,054
土地	3,933	3,949
リース資産	8,746	8,845
減価償却累計額	△4,791	△5,121
減損損失累計額	△393	△431
リース資産(純額)	3,561	3,292
使用権資産	2,916	2,998
建設仮勘定	423	451
有形固定資産合計	15,638	15,525
無形固定資産		
のれん	15,616	16,460
その他	10,114	10,800
無形固定資産合計	25,731	27,261
投資その他の資産		
投資有価証券	2,979	3,382
繰延税金資産	1,483	1,284
その他	2,033	2,092
貸倒引当金	△10	△17
投資その他の資産合計	6,485	6,742
固定資産合計	47,854	49,529
資産合計	159,519	163,733

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,213	12,408
短期借入金	10,043	11,510
1年内返済予定の長期借入金	8,901	8,469
リース債務	3,198	3,062
未払金	7,276	6,552
未払費用	8,058	7,577
未払法人税等	1,562	832
引当金	473	381
その他	4,328	3,476
流動負債合計	53,056	54,271
固定負債		
長期借入金	10,177	8,554
リース債務	3,669	3,709
繰延税金負債	431	944
再評価に係る繰延税金負債	472	472
引当金	401	369
退職給付に係る負債	2,597	2,642
その他	1,546	1,584
固定負債合計	19,295	18,276
負債合計	72,352	72,547
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,459	3,459
資本剰余金	8,147	6,744
利益剰余金	60,092	60,517
自己株式	△3,587	△3,182
株主資本合計	68,112	67,539
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,317	1,604
繰延ヘッジ損益	680	2,108
土地再評価差額金	624	624
為替換算調整勘定	16,712	19,678
退職給付に係る調整累計額	△433	△470
その他の包括利益累計額合計	18,900	23,545
新株予約権	154	100
純資産合計	87,167	91,185
負債純資産合計	159,519	163,733

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	39,552	43,102
売上原価	24,465	26,109
売上総利益	15,086	16,993
販売費及び一般管理費	13,421	14,486
営業利益	1,665	2,506
営業外収益		
受取利息及び配当金	35	143
受取賃貸料	37	36
その他	70	57
営業外収益合計	143	237
営業外費用		
支払利息	96	226
為替差損	271	93
その他	103	92
営業外費用合計	472	412
経常利益	1,335	2,330
特別利益		
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産売却損	—	3
固定資産除却損	0	3
新型コロナウイルス感染症による損失	32	—
特別損失合計	32	6
税金等調整前四半期純利益	1,303	2,327
法人税等	567	521
四半期純利益	735	1,805
親会社株主に帰属する四半期純利益	735	1,805

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	735	1,805
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△165	287
繰延ヘッジ損益	1,108	1,427
為替換算調整勘定	4,953	2,966
退職給付に係る調整額	△30	△36
その他の包括利益合計	5,865	4,645
四半期包括利益	6,600	6,451
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,600	6,451
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

新型コロナウイルス感染症による損失

前第1四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中国上海市におけるロックダウンを受け事業活動停止期間中に発生した固定費(人件費・減価償却費)等を計上しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	29,593	6,021	894	626	2,415	39,552
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,651	100	—	—	12,355	16,108
計	33,245	6,122	894	626	14,771	55,660
セグメント利益又は損失(△)	2,996	△216	△237	31	463	3,037

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,037
セグメント間取引消去	△509
全社費用(注)	△862
四半期連結損益計算書の営業利益	1,665

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	32,523	5,922	765	593	3,297	43,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,997	13	4	—	10,781	14,797
計	36,521	5,936	770	593	14,079	57,900
セグメント利益又は損失(△)	3,719	△274	△272	58	417	3,648

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,648
セグメント間取引消去	△161
全社費用(注)	△980
四半期連結損益計算書の営業利益	2,506

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。